

1. 授業科目の構成

授業科目の内容は以下のように構成されています。

- (1) 英語科目  必修科目（英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ、TOEIC対策講座Ⅰ、TOEIC対策講座Ⅱ）
選択必修科目
- (2) 教養科目  必修科目（人間学Ⅰ）
選択科目
- (3) 基礎科目  選択科目
- (4) 専門科目  必修科目（基礎ゼミナール、プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ）
選択科目

必修科目……………必ず履修しなければならない科目

選択必修科目…指定された科目の中から選択して、所定の単位を必ず履修しなければならない科目

選択科目……………自由に選択して履修できる科目

2. 卒業に要する科目、単位数の最低基準

卒業要件は次のとおりです ＜学則第40条、第41条＞

- ① 修業年限（2年）を満たすこと。
- ② 卒業に必要な所定の単位（卒業要件単位）62単位以上を修得すること。

【卒業要件単位数】

分野	英語科目		教養科目		基礎/専門科目		合計
必選別	必修	選択必修	必修	選択	必修	選択	
単位数	10	6	2	12	8	24	62
合計	16		14		32		

3. 標準配当表

区分		1年次・春学期 第1 Semester (準備期)		1年次・秋学期 第2 Semester (発展期)		2年次・春学期 第3 Semester (応用期)		2年次・秋学期 第4 Semester (完成期)	
英語科目	必修 (10単位)	英語Ⅰ TOEIC対策講座Ⅰ	2 1	英語Ⅱ TOEIC対策講座Ⅱ	2 1	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
	選択必修 (6単位)	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必修 (2単位)	人間学Ⅰ	2						
	選択 (12単位)	選択科目							12
基礎/専門科目	必修 (8単位)	基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
	選択 (24単位)	選択科目							24

4. 履修上の注意

(1) 履修登録の上限

1学期に履修できる単位数の上限は、**24単位**です。

(2) 同一科目の重複履修

- ・同一の授業科目を重複して履修することはできません。担当者が異なる場合であっても、科目名（科目コード）が同じであれば、同一科目とみなされます。ただし、履修した科目が不合格のため単位を修得できなかった場合は、再度履修することができます。

（例）「言語学概論」は春学期と秋学期に開講され、それぞれ担当者が異なりますが、同じ科目名であるため、春学期に単位を修得した場合は秋学期の履修は不可。

(3) 科目名に「A」「B」が含まれる科目

科目名に「A」「B」が含まれる科目は、それぞれが科目として独立しているため、「(4) 他の科目の履修が前提となる科目」に掲載された科目を除き、履修条件や前提科目はありません（「B」を履修するために「A」が履修済みである必要はありません）。「A」と「B」両方を履修することや、「A」もしくは「B」のみを履修することも可能です。また、「A」と「B」両方を履修する場合、「B」を先に履修することも可能です。

(4) 他の科目の履修が前提となる科目

- ・「ドイツ語Ⅱ」、「フランス語Ⅱ」、「スペイン語Ⅱ」、「中国語Ⅱ」、「韓国語Ⅱ」

4. 履修上の注意 (11) (P. 59～P. 60) を参照してください。

- ・「サービスマーケティング（児童英語教育A）」、「サービスマーケティング（児童英語教育B）」

履修には、「児童英語教育概説」、もしくは「サービスマーケティング入門講座」のうち、いずれかの科目の単位を修得済みである必要があります。

- ・「サービスマーケティング（小中学校日本語支援A）」「サービスマーケティング（小中学校日本語支援B）」
「サービスマーケティング（地域日本語支援A）」「サービスマーケティング（地域日本語支援B）」

履修には、「サービスマーケティング入門講座」の単位を修得済みである必要があります。

(5) 人数制限科目

人数制限科目とは、履修可能な人数が定められている科目のことです。開講科目表の備考欄に【○○名】という形で定員数が記載されています。

人数制限科目の履修希望者は、各学期の人数制限科目登録期間にLoyolaにてエントリーする必要があります。

なお、抽選はコンピュータによって行われ、当選した場合のみ自動的に履修登録されます。履修登録されなかった場合は、受講することができません。人数制限科目に当選した場合、当選した科目を削除することはできません。ただし、必修科目を除き履修中止期間に履修を中止することができます。

(6) 開講の中止

履修希望者が極めて少数の科目は、開講を中止する場合があります。

(7) 必修科目のクラス指定

必修科目は指定されたクラスのことを履修してください。

(8) 科目名に「(再)」が含まれる必修科目（再履修科目）

対象となる必修科目の評価が「F（不合格）」であった場合に、履修が義務付けられる科目です（再履修科目）。対象科目は以下のとおりです。なお、再履修科目の評価が「合格」となった場合は、対象となる必修科目の単位を修得したと見なされます。

履修が義務付けられる科目（再履修科目）	対象科目
英語Ⅰ（再）	英語Ⅰ
英語Ⅱ（再）	英語Ⅱ
英語Ⅲ（再）	英語Ⅲ
TOEIC対策講座Ⅰ（再）	TOEIC対策講座Ⅰ
TOEIC対策講座Ⅱ（再）	TOEIC対策講座Ⅱ
人間学Ⅰ（再）	人間学Ⅰ
基礎ゼミナール（再）	基礎ゼミナール
プレ・ゼミナール（再）	プレ・ゼミナール
ゼミナールⅠ（再）	ゼミナールⅠ

（9）英語スキルズ科目

各学期あたり1科目のみ履修可能です。レベルは基礎、標準、準上級、上級に分かれているので、自分のレベルに合う科目を履修してください。

基礎……TOEIC L&Rのスコアが295点以下を目安とします。

標準……TOEIC L&Rのスコアが300～495点程度を目安とします。

準上級……TOEIC L&Rのスコアが400点以上を目安とします。

上級……TOEIC L&Rのスコアが500点以上を目安とします。

※技能審査（英検、TOEIC等）による単位換算（P.44）も参照

（10）「体育理論（ウェルネスと身体）」、「体育A」、「体育B」

「体育理論（ウェルネスと身体）」、「体育A」、「体育B」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。

（11）「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」

- ・「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。同一言語を4単位、または異なる言語をそれぞれ2単位ずつ4単位とすることができます。

- ・各科目「Ⅰ」の履修は、以下のいずれかに該当する場合はできません。

①当該言語の母語話者である。

②当該言語で日常会話ができるレベルに能力が達している。

- ・各科目「Ⅱ」を履修するには、本学が開講する当該言語の「Ⅰ」を単位修得していることが前提であり、単位修得していない場合は、以下の①～④の要件のうちいずれか一つを満たしている必要があります。

①他の大学等において当該言語の初級レベル相当の科目を単位修得している。

【在籍していた大学が発行する成績表等の提出】

②当該言語の外部検定試験において初級に相当する級やレベルを修得している。

【試験結果や合格証等の提出】

③当該言語に関して、初級レベル相当の語学プログラム（国内及び海外）等の過程を修了している。

【プログラム修了証等の提出】

④当該言語が話されている国・地域で半年以上生活しながら、現地校で教育を受けたことがある（渡航年齢が学童期前の場合は対象外）。

【滞在や在学を証明する書類等の提出】

上記①～④のいずれにも該当しないが、各科目の「Ⅱ」を履修をするに足る能力を有すると考える者は、別途教務専門委員長と相談をし、当該言語科目担当教員の確認を得た上で、履修登録の許可を得る必要がありますので、履修する学期の「人数制限科目登録期間（英語選択必修科目）」開始前日までに事務センターへ申し出てください。

- ・各科目「Ⅱ」の履修は、以下のいずれかに該当する場合はできません。

①当該言語の母語話者である。

②他の大学等において当該言語の中級レベル相当以上の科目を単位修得している。

③当該言語の外部検定試験において中級に相当する級やレベルを取得している。

- ④当該言語に関して、中級レベル相当の語学プログラム（国内及び海外）等の課程を修了している。
- ⑤当該言語で日常会話ができるレベルに能力が達している。

(12) 「サービslラーニング入門講座」

- ・サービslラーニング活動への参加を希望する場合には、本科目を履修することが推奨されます。
- ・履修中止期間が他の科目の履修中止期間と異なります。履修中止を希望する場合は、P. 37 「3. 履修中止」を確認のうえ、期間内に所定の手続きを完了してください。
- ・成績は「P（合格）」「X（不合格）」のいずれかで評価されます。「P」の場合のみ1単位が付与されます。

(13) 「サービslラーニング（児童英語教育A／B）」

- ・成績は「P（合格）」「X（不合格）」のいずれかで評価されます。「P」の場合のみ3単位が付与されます。
- ・責任をもって地域活動に参加することを求めますので、やむを得ない場合を除いて、原則として履修中止は行わないようにしてください。

(14) 「サービslラーニング（小中学校日本語支援A／B）」、「サービslラーニング（地域日本語支援A／B）」

- ・実習を伴う科目であることから、運用上、これらの科目の上限受講者数を20名とします。
- ・成績は「P（合格）」「X（不合格）」のいずれかで評価されます。「P」の場合のみ3単位が付与されます。
- ・責任をもって地域活動に参加することを求めますので、やむを得ない場合を除いて、原則として履修中止は行わないようにしてください。
- ・地域日本語支援活動に関しては、「サービslラーニング（地域日本語支援A／B）」の授業の履修登録をせずに、ボランティア活動に参加することは可能です。ただし、その場合は「サービslラーニング入門講座」を履修することが推奨されます。

(15) 「インデペンデント・スタディA／B」

既設の科目で扱われている内容をより深く理解するため、あるいは学生自身が興味を持っているテーマを選び自ら学ぶため、学生が主体的に指導教員のもとで研究し、研究報告書として成果をまとめ、評価を受けることにより、専門選択科目として2単位を付与する制度です。

履修を希望する学生は、自分の研究テーマに相応しい指導教員（専任教員に限る）を選び、履修登録前に承諾を受けます。研究テーマについては、履修登録する学期の前の学期中に教員と相談することが望まれます。なお、各学期につき一人の教員が指導する学生は原則2名以内です。

<履修登録までの手続>

- ① 履修登録を希望する学期開始までに研究テーマを決め、指導教員を決定します。
- ② 「研究計画書」を作成し、事務センターへ提出します。指導教員は事務センターから「研究計画書」を受け取り、教務専門委員長、科長とともにその計画書を審査します。＊研究テーマは指導教員と相談の上決定します。
- ③ 指導教員と教務専門委員長及び科長の許可を受けた上で、「研究計画書」に基づき、事務センターが履修登録を行います。

<履修～評価>

- ① 学生は履修登録した学期の期間中、定期的に担当教員に対し進捗状況を報告し、指導を受けてください。
- ② 学生は履修登録した学期末までに「研究報告書」を担当教員に提出してください。最終的な研究報告書は、十分な研究調査に基づいた論文の体裁をとっている必要があります。各学期末（春学期登録者は7月、秋学期登録者は1月）に開催される「公開研究発表会」にて研究成果を教員・学生の前で発表した上で、評価されます。
- ③ 履修を中止する場合は、履修登録した学期の履修中止期間内に、Loyolaにて所定の手続を行ってください。

(16) 集中講義

集中講義とは、通常の時間割外の一定期間（「集中講義期間」）に集中して開講される科目のことであり、所定の申請を完了することによって受講することができます（P. 9～「年間予定」参照）。

5. ナンバリングについて

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。

ナンバリング基本方針

↓ 科目の分野を表す（任意のアルファベット3文字）

AAA 1 1 1

↑ 100の位で科目のレベルを表す

(1) 科目の分野

分野別	分野名
ANT	Anthropology
ART	Art
BUS	Business Management
CHN	Chinese
COM	Computer Studies
ECN	Economics
EDU	Education
ENG	English
FRN	French
GMN	German
HST	History
HSS	Humanities and Social Sciences
IDS	Interdisciplinary Studies
INT	International Studies
JPN	Japanese
JRN	Journalism
KOR	Korean

分野別	分野名
LAW	Law
LIT	Literature
LNG	Linguistics
MTH	Mathematics
MUS	Music
PED	Physical Education
PHL	Philosophy
PSY	Psychology
REL	Religious Studies
SCH	Studies in Christian Humanism
SEF	Special Education Fundamentals
SES	Special Education Seminar
SLE	Service Learning Education
SOC	Sociology
SPN	Spanish
SWF	Social Welfare

(2) 番号表記について

100番台	導入的内容を扱う科目
200番台	学問の基礎的な概念、考え方、技能を学ぶ科目
300番台	専門領域の理解を深める科目

6. 専門領域

専門科目は「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育」の4つの領域に分類されています。ある領域に集中して学ぶことも可能ですし、それぞれの領域から自由に科目を選択して履修することも可能です。

それぞれの領域には以下の基礎科目が設けられています（異文化理解：「キリスト教文化入門」・「異文化間コミュニケーション」、英米文学研究：「英文学概論」、言語研究：「言語学概論」、言語教育：「児童英語教育概説」）。基礎科目は4領域のテーマを学ぶにあたり、導入科目となります。

<各領域の概要>

異文化理解領域	英米文学研究領域	言語研究領域	言語教育領域
さまざまな国の文化や社会、歴史、考え方などについて学びます。	英語圏の文学を通してさまざまな表現手法や思想について学びます。	ことばの仕組みや使い方、バリエーションなどについて学びます。	子どもたちへの英語の教え方や外国籍の方への日本語の教え方を、理論と実践の両面から学びます。

7. 英語科卒業認定・学位授与の方針及び学修成果獲得の観点

英語科卒業認定・学位授与の方針で定める5つの資質・能力について、1－5の番号で表しています。また具体的な学修成果獲得の観点について、1－①から5－②までの数字によって関連する科目として表しています。

1	【キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます】 【Following the spirit of Christian humanism and working with others, students acquire abilities to achieve personal development】 キリスト教ヒューマニズムの精神を、キリスト教倫理や哲学において理解し、そこで獲得した視座に基づき人間及び社会的現象を考察できます。そして、その精神の根底に在る人間の尊厳への敬意、他者愛、献身の心を深く理解するとともに、他者とのかかわりの中で自己形成を行い、人間関係、共同体を構築する力を備えます。 Students can understand the spirit of Christian humanism through their learning in Christian ethics and philosophy and, from such perspectives, can explore questions regarding humanity and society. They develop a deep understanding of respect for human dignity, love of others, and the spirit of devotion—qualities that underlie the spirit of Christian humanism—and they acquire capabilities necessary to build human relationships and communities, as they achieve personal development working with other individuals.		
	関連科目	主な学修成果獲得の観点	
1-①	「人間学Ⅱ」「宗教学A」「宗教学B」 「キリスト教文化入門」「倫理学」 「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」 リメディアル科目「人間学Ⅰ（再）」	【知識・理解】 キリスト教思想・倫理、文化 【思考・判断】 課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】 ノートテイキング、文献読解、論文作成力 【態度・志向性】 自己形成力（「人間学Ⅰ」「人間学Ⅱ」） 【協働・共生】 他者との協働力（「人間学Ⅰ（再）」）	
2	【学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます】 【Students can acquire academic skills essential to scholarly learning and acquire broad knowledge in general education】 大学での学びに必要な読解力、論理的文章構成力、発表力を身につけます。同時に人文・社会科学を中心とする幅広い教養を修得し、人間と社会にかかわる多様な事象を理解し、意見を発信する力を身につけます。 Students acquire skills in reading, logical writing, and oral presentation that are essential to college-level learning. Also, they acquire broad knowledge in general education, focusing on the humanities and social sciences; understand diverse questions regarding humanity and society; and develop abilities to express themselves.		
	関連科目	主な学修成果獲得の観点	
2-①	「人間学Ⅱ」「歴史学A」「歴史学B」 「哲学A」「哲学B」「宗教学A」「宗教学B」 「音楽A」「音楽B」「社会学A」「社会学B」 「日本国憲法A」「日本国憲法B」 「法学A」「法学B」「教育学A」「教育学B」 「経済学A」「経済学B」「経営学A」「経営学B」 「社会福祉入門A」「社会福祉入門B」 「マスメディア論A」「マスメディア論B」 「数学A」「数学B」「心理学A」「心理学B」 リメディアル科目「人間学Ⅰ（再）」	【知識・理解】 人文学、社会科学、芸術、科学 【思考・判断】 課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】 ノートテイキング、文献読解、論文作成力	
2-②	「基礎コンピューター演習」	【知識・理解】 情報学 【思考・判断】 IT倫理・セキュリティー 【技能・表現】 データ処理、文書作成、自己表現、コミュニケーション力	

2-③	「体育理論（ウエルネスと身体）」 「体育A」「体育B」	【知識・理解】 体育理論 【思考・判断】 論理的思考力 【技能・表現】 ノートテイキング、文献読解、 体育実技力（「体育A」「体育B」）
2-④	リメディアル科目 「基礎ゼミナール（再）」	【知識・理解】 基礎的研究法 【思考・判断】 論理的思考力 【技能・表現】 文章読解、日本語文章作成、 コミュニケーション、自己表現、発表力

3	【自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます】 【Students can acquire English skills, with special emphasis on expressive skills, and use practical and academic English】 英語を実践的かつ学術的に運用するために重要な主題として、（1）自己形成と他者との共存、（2）異文化・多文化、（3）日本における社会問題、（4）日本の問題と国際問題、にかかわる知識とともに、自己発信力に重点を置いた4技能（読む・書く・聴く・話す）を身につけることができます。 Students can acquire knowledge in subject matters essential to using practical and academic English such as (1) personal development and living with others, (2) cross-cultural and multi-cultural issues, (3) social issues in Japan, and (4) Japanese and international issues; in so doing, they acquire four language skills (reading, writing, listening, speaking) with special emphasis on expressive skills.	
	関連科目	主な学修成果獲得の観点
	3-① 「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」 リメディアル科目 「英語Ⅰ（再）」「英語Ⅱ（再）」「英語Ⅲ（再）」	【知識・理解】 他者との共存の諸問題（「英語Ⅰ（再）」） 異文化との遭遇（「英語Ⅱ（再）」） 日本における社会問題（「英語Ⅲ」「英語Ⅲ（再）」） 日本と世界との関係（「英語Ⅳ」） 【思考・判断】 論理的・批判的思考力 【技能・表現】 自己発信力・4技能 【協働・共生】 ペア・グループワークでの協働力
	3-② 英語スキルズ科目 「TOEICスピーキング・ライティング対策」 リメディアル科目 「TOEIC対策講座Ⅰ（再）」「TOEIC対策講座Ⅱ（再）」	【知識・理解】 ビジネス事情 【思考・判断】 論理的思考力 【技能・表現】 読解・リスニング力
	3-③ 英語スキルズ科目 「文法・語彙」「リーディング・ライティング」 「職場の英語」「ディスカッション」「編入対策」 「ホスピタリティの英語」「日本の文化」 「メディア・ニュースの英語」 「TOEICスピーキング・ライティング対策」 「多読速読」「ライティング・文法」「SDGs」	【知識・理解】 言語、異文化、国際問題、社会問題、 学術的専門分野、ビジネス、キャリア形成 【思考・判断】 論理的・批判的思考力 【技能・表現】 自己発信力・4技能 【協働・共生】 ペア・グループワークでの協働力
	3-④ 英語で学ぶ基礎・専門科目 「異文化間コミュニケーション」「文化人類学」 「平和と開発」「現代美術」 「リテラシーと多文化教育」 「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」 「インデペンデント・スタディA」 「インデペンデント・スタディB」	【知識・理解】 キリスト教思想・倫理、宗教、異文化理解、 コミュニケーション、言語、教育、倫理、 平和、国際開発、美術 【思考・判断】 課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】 ノートテイキング、文献読解、論文作成力 【技能・表現（インデペンデント・スタディA/B）】 自律研究、研究発表力

4	【専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます】 【Students can acquire specialized knowledge and abilities to conduct research as autonomous learners】 異文化理解、英米文学研究、言語研究、言語教育、多文化共生、及び国際問題とかかわる分野の知識を獲得し、論理的、批判的思考に基づき、研究する力を身につけることができます。自律した学修者として課題を自ら設定し、それらに挑戦し続けることのできる意欲と技能を持つことができます。 Students can acquire knowledge related to such academic areas as cross-cultural understanding, English literature, linguistics, language education, multi-cultural symbiosis, and international issues, and develop abilities to conduct research, backed by sound logical and critical thinking skills. As autonomous learners, they develop abilities to set their own agendas and have strong motivations and skills to pursue those agendas.	
	関連科目	主な学修成果獲得の観点
4-①	基礎科目 「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」 「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」 「スペイン語Ⅰ」「スペイン語Ⅱ」 「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」 「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」 「日本語表現法」「キャリアプランニング」	【知識・理解】 言語、異文化、海外社会事情、キャリア形成 【技能・表現】 言語4技能、日本語作文力、キャリア形成、コミュニケーション、発表力
4-②	専門科目群基礎科目 「英文学概論」「言語学概論」 「キリスト教文化入門」 「異文化間コミュニケーション」 「児童英語教育概説」	【知識・理解】 異文化理解、英米文学、言語研究、言語教育 【思考・判断】 課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】 ノートテイキング、文献読解、論文作成力
4-③	リメディアル科目 「ブレ・ゼミナール（再）」	【知識・理解】 人文学、社会科学 【思考・判断】 論理的・批判的思考力 【技能・表現】 専門文献読解、研究論文作成、研究発表、討論力育成への準備 【態度・志向性】 自律した研究への準備 【協働・共生】 討論を通じた他者との協働力
4-④	「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」 リメディアル科目 「ゼミナールⅠ（再）」	【知識・理解】 人文学、社会科学 【思考・判断】 課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】 専門文献読解、研究論文作成、研究発表、討論力 【態度・志向性】 研究での自律性 【協働・共生】 討論を通じた他者との協働力
4-⑤	専門科目 異文化理解領域科目 英米文学研究領域科目 言語研究領域科目 言語教育領域科目 自律研究科目 「インデペンデント・スタディA」 「インデペンデント・スタディB」	【知識・理解】 異文化理解、英米文学、言語研究、言語教育 【思考・判断】 課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】 ノートテイキング、文献読解、論文作成力 【技能・表現(インデペンデント・スタディA/B)】 自律研究、研究発表力
5	【地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます】 【Students can develop their awareness as global citizens and engage in activities that aim to bring about multi-cultural symbiosis】 国際的な諸問題、そしてその背後にある文化、歴史、思想を、自らの生とのかかわりにおいて理解し、地球市民としての問題意識をもち、国内外における国際社会が抱える問題の解決、及び多文化共生社会の実現に向けた実践ができます。 Students can understand the importance of international issues and how they relate to their own lives, and also understand the cultures, histories, and ideas behind those issues. They develop an awareness of these issues as global citizens and work for the establishment of multi-cultural society.	
	関連科目	主な学修成果獲得の観点
5-①	「教育学B」 「バイリンガル教育」 「サービスマーケティング入門講座」 「サービスマーケティング（小中学校日本語支援A）」 「サービスマーケティング（小中学校日本語支援B）」 「サービスマーケティング（地域日本語支援A）」 「サービスマーケティング（地域日本語支援B）」 「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」	【知識・理解】 キリスト教奉仕の精神、言語教育理論、多文化、ボランティア論 【技能・表現】 言語教育力 【態度・志向性】 地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】 多文化間の協働・共生力
5-②	「サービスマーケティング入門講座」 「児童英語教育概説」 「サービスマーケティング（児童英語教育A）」 「サービスマーケティング（児童英語教育B）」 「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」	【知識・理解】 キリスト教奉仕の精神、言語教育理論、異文化、ボランティア論 【技能・表現】 言語教育力 【態度・志向性】 地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】 地域社会の国際化のための協働力

8. 開講科目表

授業回数…◎＝週2回、○＝週1回、●＝週1回・2時限連続を表しています。

DP及び学修成果の項目については、「英語科卒業認定・学位授与の方針と開講科目との関連」(P. 53) 及び「英語科卒業認定・学位授与の方針及び学修成果獲得の観点」(P. 62～64) を参照してください。

ナンバ リング	授業科目名	単位			開講期・ 授業回数		履 修 年 次	担当者	備考	DP及び学修成果		
		必 修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期				DP 分類	学修成果 獲得の観点	
英語必修科目											講義内容（シラバス）→ P. 1 ～ P. 45	
ENG101	英語Ⅰ (再)	2			◎	◎	1	C.Oliver、Thomas	・クラス指定 ・PP. 58-59(7)(8)「履 修上の注意」参照 ・「英語Ⅰ」の評価が 「F(不合格)」の学生 に限り、履修が義務 付けられます。	3	3-①	
ENG102	英語Ⅱ (再)	2			◎	◎	1	神谷、M. Lupas	・クラス指定 ・PP. 58-59(7)(8)「履 修上の注意」参照 ・「英語Ⅱ」の評価が 「F(不合格)」の学生 に限り、履修が義務 付けられます。	3	3-①	
ENG201	英語Ⅲ	2			◎		2	Thomas、R. Burton、 O. Ilina、O. Massoud、 M. Wilkinson、 J. Zhang	・クラス指定 ・P. 58(7)「履修上の 注意」参照	3	3-①	
ENG201	英語Ⅲ (再)	2				◎	2	神谷	・クラス指定 ・PP. 58-59(7)(8)「履 修上の注意」参照 ・「英語Ⅲ」の評価が 「F(不合格)」の学生 に限り、履修が義務 付けられます。	3	3-①	
ENG202	英語Ⅳ	2				◎	2	G. Freddes、 O. Ilina、岩崎、 P. McQuilling、 O. Massoud、 M. Wilkinson	・クラス指定 ・P. 58(7)「履修上の 注意」参照	3	3-①	
ENG111	TOEIC対策講座Ⅰ (再)	1			○	○	1	神谷、M. Lupas	・クラス指定 ・PP. 58-59(7)(8)「履 修上の注意」参照 ・「TOEIC対策講座Ⅰ」 の評価が「F(不 合格)」の学生に限り、 履修が義務付けられ ます。	3	3-②	
ENG112	TOEIC対策講座Ⅱ (再)	1			○	○	1	C.Oliver、Thomas	・クラス指定 ・PP. 58-59(7)(8)「履 修上の注意」参照 ・「TOEIC対策講座Ⅱ」 の評価が「F(不 合格)」の学生に限り、 履修が義務付けられ ます。	3	3-②	
英語選択必修科目（英語スキルズ）											講義内容（シラバス）→ P. 46 ～ P. 73	
ENG120	基礎英語スキルズ (文法・語彙)		2		◎		1・2	J. Zhang	[人]15名	3	3-③	
ENG126	基礎英語スキルズ (リーディング・ ライティング)		2			◎	1・2	岩崎	[人]15名	3	3-③	
ENG150	標準英語スキルズ (職場の英語)		2		◎		1・2	M. Wilkinson	[人]15名	3	3-③	
ENG158	標準英語スキルズ (ディスカッション)		2		◎		1・2	O. Massoud	[人]15名	3	3-③	

ナンバリング	授業科目名	単位			開講期・授業回数		履修年次	担当者	備考	DP及び学修成果	
		必修	選必	選択	春学期	秋学期				DP分類	学修成果獲得の観点
ENG161	標準英語スキルズ (編入対策)		2		◎		1・2	岩崎	[人]15名	3	3-③
ENG166	標準英語スキルズ (ホスピタリティの英語)		2		◎		1・2	R. Burton	[人]15名	3	3-③
ENG167	標準英語スキルズ (日本の文化)		2		◎		1・2	宮崎	[人]15名	3	3-③
ENG168	標準英語スキルズ (メディア・ニュースの英語)		2			◎	1・2	J. Zhang	[人]15名	3	3-③
ENG169	標準英語スキルズ (リーディング・ライティング)		2			◎	1・2	P. McQuilling	[人]15名	3	3-③
ENG182	準上級英語スキルズ (TOEICスピーキング・ライティング対策)		2		◎		1・2	P. McQuilling	[人]15名	3	3-②, 3-③
ENG183	準上級英語スキルズ (多読速読)		2		◎		1・2	M. Lupas	[人]15名	3	3-③
ENG189	準上級英語スキルズ (ライティング・文法)		2			◎	1・2	R. Burton	[人]15名	3	3-③
ENG225	上級英語スキルズ (編入対策)		2		◎		1・2	永野	[人]15名	3	3-③
ENG229	上級英語スキルズ (SDGs)		2		◎		1・2	G. Fredes	[人]15名	3	3-③
教養必修科目								講義内容 (シラバス) → P. 74 ~ P. 75			
SCH100	人間学 I (再)		2		○	○	1	(春) 丹木 (秋) 小林	・クラス指定 ・PP. 58-59(7) (8)「履修上の注意」参照 ・「人間学 I」の評価が「F(不合格)」の学生に限り、履修が義務付けられます。	1, 2	1-①, 2-①
教養選択科目								講義内容 (シラバス) → P. 76 ~ P. 141			
SCH101	人間学 II			2	○		1・2	小林		1, 2	1-①, 2-①
HST201	歴史学 A			2	○		1・2	森下		2	2-①
HST202	歴史学 B			2		○	1・2	森下		2	2-①
PHL203	哲学 A			2	○		1・2	丹木		2	2-①
PHL204	哲学 B			2		○	1・2	丹木		2	2-①
REL201	宗教学 A			2	○		1・2	小林		1, 2	1-①, 2-①
REL202	宗教学 B			2	○		1・2	小林		1, 2	1-①, 2-①
MUS201	音楽 A			2	○		1・2	北村		2	2-①
MUS202	音楽 B			2		○	1・2	北村		2	2-①
SOC201	社会学 A			2	○		1・2	ミカロヴァー		2	2-①
SOC202	社会学 B			2		○	1・2	ミカロヴァー		2	2-①
LAW211	日本国憲法 A			2	○		1・2	ヒトロフ		2	2-①
LAW212	日本国憲法 B			2		○	1・2	ヒトロフ		2	2-①

ナンバリング	授業科目名	単位			開講期・授業回数		履修年次	担当者	備考	DP及び学修成果	
		必修	選必	選択	春学期	秋学期				DP分類	学修成果獲得の観点
LAW201	法学A			2	○		1・2	ヒトロフ		2	2-①
LAW202	法学B			2		○	1・2	ヒトロフ		2	2-①
EDU201	教育学A			2	○		1・2	櫛桁		2	2-①
EDU202	教育学B			2	○		1・2	黒田		2, 5	2-①, 5-①
ECN201	経済学A			2	○		1・2	溝口		2	2-①
ECN202	経済学B			2	○		1・2	溝口		2	2-①
BUS201	経営学A			2	○		1・2			2	2-①
BUS202	経営学B			2		○	1・2			2	2-①
SWF201	社会福祉入門A			2	○		1・2	西牧		2	2-①
SWF202	社会福祉入門B			2		○	1・2	西牧		2	2-①
JRN202	マスメディア論A			2	○		1・2	吉武		2	2-①
JRN203	マスメディア論B			2		○	1・2	吉武		2	2-①
COM101	基礎コンピュータ演習			2	○		1・2	坂本	[人]各18名	2	2-②
MTH201	数学A			2	○		1・2	坂本		2	2-①
MTH202	数学B			2		○	1・2			2	2-①
PSY201	心理学A			2	○		1・2	眞田		2	2-①
PSY202	心理学B			2		○	1・2	佐藤		2	2-①
PED100	体育理論 (ウエルネスと身体)			2	○	○	1・2	若松		2	2-③
PED113	体育A			1	○		1・2	若松	[人]各20名	2	2-③
PED114	体育B			1		○	1・2	若松	[人]各20名	2	2-③
基礎選択科目（異文化理解領域）								講義内容（シラバス）→ P. 142 ～ P. 145			
REL210	キリスト教文化入門			4		◎	1・2	小林（輪講）		1, 4	1-①, 4-②
IDS210	異文化間 コミュニケーション			4	◎		1・2	C. Oliver		3, 4	3-④, 4-②
基礎選択科目（英米文学研究領域）								講義内容（シラバス）→ P. 146 ～ P. 147			
LIT201	英文学概論			4	◎	◎	1・2	飯田		4	4-②
基礎選択科目（言語研究領域）								講義内容（シラバス）→ P. 148 ～ P. 151			
LNG200	言語学概論			4	◎	◎	1・2	(春) 近藤 (秋) 神谷		4	4-②
基礎選択科目（言語教育領域）								講義内容（シラバス）→ P. 152 ～ P. 153			
EDU205	児童英語教育概説			2	○	○	1・2	狩野		4, 5	4-②, 5-②

ナンバリング	授業科目名	単位			開講期・授業回数		履修年次	担当者	備考	DP及び学修成果			
		必修	選必	選択	春学期	秋学期				DP分類	学修成果獲得の観点		
基礎選択科目												講義内容（シラバス）→ P. 154 ～ P. 177	
GMN101	ドイツ語Ⅰ			2	◎		1・2	工藤	PP. 59-60(11)「履修上の注意」参照	4	4-①		
GMN102	ドイツ語Ⅱ			2	◎	◎	1・2	工藤	・「ドイツ語Ⅰ」既修者か、それに相当する者に限る ・P.58(4)、PP.59-60(11)「履修上の注意」参照	4	4-①		
FRN101	フランス語Ⅰ			2	◎		1・2	鈴木	PP. 59-60(11)「履修上の注意」参照	4	4-①		
FRN102	フランス語Ⅱ			2	◎	◎	1・2	鈴木	・「フランス語Ⅰ」既修者か、それに相当する者に限る ・P.58(4)、PP.59-60(11)「履修上の注意」参照	4	4-①		
SPN101	スペイン語Ⅰ			2	◎		1・2	A. Gilabert	PP. 59-60(11)「履修上の注意」参照	4	4-①		
SPN102	スペイン語Ⅱ			2	◎	◎	1・2	A. Gilabert	・「スペイン語Ⅰ」既修者か、それに相当する者に限る ・P.58(4)、PP.59-60(11)「履修上の注意」参照	4	4-①		
CHN101	中国語Ⅰ			2	◎		1・2	廣重	PP. 59-60(11)「履修上の注意」参照	4	4-①		
CHN102	中国語Ⅱ			2	◎	◎	1・2	廣重	・「中国語Ⅰ」既修者か、それに相当する者に限る ・P.58(4)、PP.59-60(11)「履修上の注意」参照	4	4-①		
KOR101	韓国語Ⅰ			2	◎		1・2	丁	PP. 59-60(11)「履修上の注意」参照	4	4-①		
KOR102	韓国語Ⅱ			2	◎	◎	1・2	丁	・「韓国語Ⅰ」既修者か、それに相当する者に限る ・P.58(4)、PP.59-60(11)「履修上の注意」参照	4	4-①		
JPN250	日本語表現法			2	○	○	1・2	鷲見	[人]各20名	4	4-①		
SEF200	キャリアプランニング			2		○	1・2	森下（輪講）	同窓会寄附講座	4	4-①		
専門必修科目												講義内容（シラバス）→ P. 178 ～ P. 231	
SES100	基礎ゼミナール(再)	2			○	○	1	(春)丹木 (秋)杉村	・クラス指定 ・PP. 58-59(7)(8)「履修上の注意」参照 ・「基礎ゼミナール」の評価が「F(不合格)」の学生に限り、履修が義務付けられます。	2	2-④		
SES150	プレ・ゼミナール(再)	2			○		1	杉村	・クラス指定 ・PP. 58-59(7)(8)「履修上の注意」参照 ・「プレ・ゼミナール」の評価が「F(不合格)」の学生に限り、履修が義務付けられます。	4	4-③		

ナンバリング	授業科目名	単位			開講期・授業回数		履修年次	担当者	備考	DP及び学修成果	
		必修	選必	選択	春学期	秋学期				DP分類	学修成果獲得の観点
SES200	ゼミナールⅠ (永野)	2			○		2	永野	・ P. 58(7)「履修上の注意」参照 ・ 原則として、「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅡ」は同一教員の担当科目を履修する。	4	4-④
SES200	ゼミナールⅠ (近藤)	2			○		2	近藤		4	4-④
SES200	ゼミナールⅠ (丹木)	2			○		2	丹木		4	4-④
SES200	ゼミナールⅠ (森下)	2			○		2	森下		4	4-④
SES200	ゼミナールⅠ (宮崎)	2			○		2	宮崎		4, 5	4-④, 5-①
SES200	ゼミナールⅠ (狩野)	2			○		2	狩野		4, 5	4-④, 5-②
SES200	ゼミナールⅠ (Oliver)	2			○		2	C.Oliver		3, 4	3-④, 4-④
SES200	ゼミナールⅠ (杉村)	2			○		2	杉村		4	4-④
SES200	ゼミナールⅠ (神谷)	2			○		2	神谷		4	4-④
SES200	ゼミナールⅠ (小林)	2			○		2	小林		1, 4	1-①, 4-④
SES200	ゼミナールⅠ (Thomas)	2			○		2	Thomas		3, 4	3-④, 4-④
SES200	ゼミナールⅠ (Lupas)	2			○		2	M. Lupas		3, 4	3-④, 4-④
SES200	ゼミナールⅠ (再)	2				○	2	杉村	・ クラス指定 ・ PP. 58-59(7) (8)「履修上の注意」参照 ・ 「ゼミナールⅠ」の評価が「F(不合格)」の学生に限り、履修が義務付けられます。	4	4-④
SES300	ゼミナールⅡ (永野)	2				○	2	永野	・ P. 58(7)「履修上の注意」参照 ・ 原則として、「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅡ」は同一教員の担当科目を履修する。	4	4-④
SES300	ゼミナールⅡ (近藤)	2				○	2	近藤		4	4-④
SES300	ゼミナールⅡ (丹木)	2				○	2	丹木		4	4-④
SES300	ゼミナールⅡ (森下)	2				○	2	森下		4	4-④
SES300	ゼミナールⅡ (宮崎)	2				○	2	宮崎		4, 5	4-④, 5-①
SES300	ゼミナールⅡ (狩野)	2				○	2	狩野		4, 5	4-④, 5-②
SES300	ゼミナールⅡ (Oliver)	2				○	2	C.Oliver		3, 4	3-④, 4-④
SES300	ゼミナールⅡ (杉村)	2				○	2	杉村		4	4-④
SES300	ゼミナールⅡ (神谷)	2				○	2	神谷		4	4-④
SES300	ゼミナールⅡ (小林)	2				○	2	小林		1, 4	1-①, 4-④
SES300	ゼミナールⅡ (Thomas)	2				○	2	Thomas		3, 4	3-④, 4-④
SES300	ゼミナールⅡ (Lupas)	2				○	2	M. Lupas		3, 4	3-④, 4-④
専門選択科目（異文化理解領域）										講義内容（シラバス）→ P. 232 ～ P. 249	
HST310	東洋研究			4	◎		1・2	玉置		4	4-⑤
HST302	西洋研究			4		◎	1・2	森下	隔年開講	4	4-⑤

ナンバリング	授業科目名	単位			開講期・授業回数		履修年次	担当者	備考	DP及び学修成果	
		必修	選必	選択	春学期	秋学期				DP分類	学修成果獲得の観点
JPN311	日本文化			4			1・2	2025年度休講	隔年開講	4	4-⑤
HST301	英米史			4			1・2	2025年度休講	隔年開講	4	4-⑤
HST300	比較社会史			4	◎		1・2	森下	隔年開講	4	4-⑤
INT301	国際関係論			4	◎	◎	1・2			4	4-⑤
ANT300	文化人類学			4		◎	1・2	C. Oliver		3, 4	3-④, 4-⑤
ART300	現代美術			4	◎		1・2	G. Fredde		3, 4	3-④, 4-⑤
EDU302	比較・国際教育学			4	◎		1・2	杉村		4	4-⑤
PHL310	倫理学			4		◎	1・2	丹木		1, 4	1-①, 4-⑤
SOC301	平和と開発			4		◎	1・2	Thomas		3, 4	3-④, 4-⑤
専門選択科目（英米文学研究領域）								講義内容（シラバス）→ P. 250 ～ P. 255			
LIT310	英詩研究			4		◎	1・2	飯田	隔年開講	4	4-⑤
LIT320	演劇研究			4			1・2	2025年度休講	隔年開講	4	4-⑤
LIT321	小説研究			4		◎	1・2	永野		4	4-⑤
LIT322	映画と文学			4	◎		1・2	飯田		4	4-⑤
専門選択科目（言語研究領域）								講義内容（シラバス）→ P. 256 ～ P. 263			
LNG310	社会言語学			4	◎		1・2	神谷		4	4-⑤
LNG305	音声学			4		●	1・2	野口		4	4-⑤
LNG330	日本語学			2		○	1・2	鷺見		4	4-⑤
LNG302	語用論			4		◎	1・2	近藤		4	4-⑤
専門選択科目（言語教育領域）								講義内容（シラバス）→ P. 264 ～ P. 283			
LNG320	バイリンガル教育			2		○	1・2	宮崎		4, 5	4-⑤, 5-①
EDU310	初等教育			4		◎	1・2	杉村		4	4-⑤
SLE201	サービスマーケティング入門講座			1		○	1・2	宮崎		4, 5	4-⑤, 5-①, 5-②
SLE305	サービスマーケティング（児童英語教育A）			3		●	2	狩野	・「サービスマーケティング入門講座」又は「児童英語教育概説」既修者に限る ・ P. 58(4)、P. 60(13) 「履修上の注意」参照	4, 5	4-⑤, 5-②
SLE306	サービスマーケティング（児童英語教育B）			3		●	2	狩野	・「サービスマーケティング入門講座」又は「児童英語教育概説」既修者に限る ・ P. 58(4)、P. 60(13) 「履修上の注意」参照	4, 5	4-⑤, 5-②

ナンバリング	授業科目名	単位			開講期・授業回数		履修年次	担当者	備考	DP及び学修成果	
		必修	選必	選択	春学期	秋学期				DP分類	学修成果獲得の観点
SLE301	サービスマーケティング (小中学校日本語支援A)			3	◎		2	鷲見	[人]各20名 ・「サービスマーケティング入門講座」既修者に限る ・P. 58(4)、P. 60(14) 「履修上の注意」参照	4, 5	4-⑤, 5-①
SLE302	サービスマーケティング (小中学校日本語支援B)			3		◎	1・2	宮崎		4, 5	4-⑤, 5-①
SLE303	サービスマーケティング (地域日本語支援A)			3	◎		2	宮崎		4, 5	4-⑤, 5-①
SLE304	サービスマーケティング (地域日本語支援B)			3		◎	1・2	鷲見		4, 5	4-⑤, 5-①
EDU322	リテラシーと多文化教育			4		◎	1・2	M. Lupas		3, 4	3-④, 4-⑤
専門選択科目（その他）											
SES390	インデペンデント・スタディA			2			1・2	担当教員	詳細はP. 60(15)「履修上の注意」参照	3, 4	3-④, 4-⑤
SES391	インデペンデント・スタディB			2			1・2	担当教員	詳細はP. 60(15)「履修上の注意」参照	3, 4	3-④, 4-⑤

